

前線からみなさんへ④

～日本エコツーリズムセンター代表理事・広瀬敏通氏による「RQ市民災害救援センター活動レポート」他より抜粋～

できるボランティアの必須アイテムはコレだ!



「支援(物資でも人でも)はたくさん来てくれるけれど、現地ですぐ役立つ役割がない」ということが多くあります。具体的に

現在、仙台から石巻はバス便もあり、周辺はボランティア供給過多が生じていますが、福島に近づく南側のエリアと、石巻以北の三陸沿岸部は、ボランティア過疎になっている状態です。

災害現場のボランティアには、自立・協調・被災者への配慮など、多くの資質が求められます。RQでは、ボランティアの希望者には事前に登録を

つなぐ仕事



「今日ガレキの撤去をしていたところ、今後は自衛隊がこの地域を担当するとの話が出たようです。自衛隊の力は絶対的に大きくて、一気に片付けは進むけれど、自衛隊の去った後に散らばった細かなゴミを拾ったり、思い出し詰まったお茶碗をきれいに拭いたりといったところまで、私たちがお手伝いできます。そういうところまで支援してあげるのがRQのいいところであり、やるべき役割なのだと思います。」

復興は始まったばかり、少しずつ進んでいます。

どこでどんな支援が必要かを把握し、それに応えるコーディネートをするのが、被災者のためにも、熱意をもって集まってくるボランティアたちのためにも、私たちの大切な仕事となっています。

ボランティアの個々人は社会経験の少ない若者も多くいます。しかも昨日まで顔を合わせたこともない、この場限りの集団ですが、それが現場で見た人でなければ信じられないほどに、ひとつの大きな生き物のように多くの異なる機能や働きをする器官を持ち、全体として確実に成長し続ける集団を作っているのです。

どんなに大きくても目的を持たない集団は「烏合の衆」ですが、ここでは共通の目的である「被災地と被災者に貢献したい」という思いが全員を包んでいるために、相互に強い協調の意思がはたらき、無駄な動きを削ぎ、機能的、効率的な働きをする組織体が生まれているのです。

「現地からの声」
現地で活動中のボランティアAさんから、こんなつぶやきが届きました。

週刊

東北に黒糖を送ろう! 大作戦

しんぶん

毎週火曜日発行予定

ニュース5910 *岩手のポスター*



「前よりいい町にしてやる。」と力強いメッセージの書かれたポスター。撮影は震災から10日後。左上には小さく「釜石市」と書かれています。岩手県内陸部から、震災で被害の大きかった沿岸部への励ましのために作られました。カメラマン、コピーライター、印刷所、それぞれが「できること」を持ち寄って、このポスターが作られたのでしょう。被災者のみならず、復興のために働く現地ボランティアたち、遠くから支援する私たちの心にも栄養を与えられる、素晴らしい救援物資です。

このほかにも「仲間は力だと、わかった。」「心まで壊されてたまるか。」などの作品があり、新作も続々と作られています。若い夫婦と赤ちゃんの写真を使った「続く未来に胸張れるよう。」というポスターには、東北人がこの危機を気高く乗り越えようという強い意志が感じられ、胸が熱くなります。

*「今週の三洋云」は、誌面の都合により次週まとめて掲載いたします。

広瀬理事の活動報告もボランティア申し込みも日本エコツーリズムセンターホームページで!
(<http://www.ecotourism-center.jp>)



4月18日(月) 今週も黒糖の発送もお休みいたします



「4/8 から一週間程度」の予定での物資受け入れ中断というご案内でしたが、思いのほか整理作業に時間がかかっている様子で、いまだに受け入れは再開されていません。まさに、モノからヒトへの支援の分岐点に来ているのでしょう。

私たちエコツー協会からの支援も、黒糖(=物資)を送る以外の方法(活動資金の支援など)に替えていくべきかどうか、検討を進めているところです。

募金箱設置場所(4月11日17時現在・順不同)... [東部地区] ラ・ティーダ西表 宇南風見 大原港ターミナル(竹富町観光協会、八重山観光フェリー) 大富売店 [西部地区] ゆりみな(上原港ターミナル) スーパー川満 西部歯科診療所 santa nu neene カフェなかゆくい ダイビングチームうなりざき 民宿パイン館 民宿あけぼの館 民宿母家 マリンロッヂアトク キッチン inaba 西表島エコツーリズム協会 紅露工房 浦内川観光 イルンティフタテムラ 星砂スーパー 金城旅館 [波照間]